

青森県版小学校英語読み聞かせ教材 『AOMORI Picture Book』の開発

丹藤 永也[※] 瀧沢 広人^{※※} 丹藤 慧也^{※※※}

1. はじめに

本研究の目的は、丹藤 (2019) で作成されたモデル版をもとに、青森県版小学校英語読み聞かせ教材『AOMORI Picture Book』を開発することである。この教材の主な特徴は2つあり、小学校外国語科での活用を想定した読み聞かせ教材であるということと、青森県の特長を題材にした地域教材であるということである。

本研究に取り組む契機となったのは、文部科学省が2017年3月に新しい『小学校学習指導要領』を告示し、それを受けて小学校で初めて英語が外国語科として教科になったからである。2020年4月より、小学校の中学年においては領域としての外国語活動が年間35時間、高学年においては教科としての外国語科が年間70時間実施されている。今回の改訂の大きな特徴は、高学年の英語が教科になったことにより、文部科学省の検定を受けた教科書が使用され、読んだり書いたりする文字指導が導入されたことと、他教科と同じように数値による評定が付けられるようになったことである。これにより、原則的に学級担任が指導することになっている外国語科では、学級担任の指導技術や英語力の問題、教科書を使用した指導法の模索、新しい観点(知識技能・思考判断表現・主体的に学習に取り組む態度)での評価、さらには「話すこと[やり取り][発表]」のアウトプットを評価するパフォーマンステストの実施等、多くの課題が指摘され、英語教育関連の学会や研究会での議論も増えている。そのような中で、丹藤 (2019) は指導教材の不足を指摘している。中学校の場合、免許を持った専任教員が、授業の空き時間

を活用して教科書の内容や活動に合わせた自主教材を作成して指導を行ったりしている。しかし、小学校の場合、主に学級担任が指導者であるため、ほとんど空き時間もない中で授業の準備をし、ALTとの打ち合わせも十分にできない状態で授業に臨んでいるケースが多いため、補助教材の開発もままならないということが容易に推察される。丹藤 (2019) はこのような現状を憂慮して、これまでも早期英語教育で多く取り入れられてきた絵本の読み聞かせに注目し、小学校で英語が教科になることを想定して作成され、5,6年生対象に使用されていた文部科学省英語補助教材『We can!』に採用されている読み聞かせ教材用の絵本型教材『STORY TIME』を分析して、それをもとに青森県版小学校英語読み聞かせ教材のモデル版を作成している。

本研究では、このモデル版をもとにして『AOMORI Picture Book』を開発することを目的としているが、本教材に読み聞かせを採用した理由は、読み聞かせはストーリーテリングと呼ばれ、文字と音声による英語のインプットと、子どもの興味関心を引くような絵という視覚的補助介在によって意味理解を促し、楽しみながら自然に英語の音と文字の結びつきや英語独特のリズムに気づかせることができるというメリットがあるからである。樋口・加賀田・泉・衣笠 (2013) も、絵本を活用するメリットとして、ある程度まとまりのある英語を聞くことを通して、英語特有の音、リズム、抑揚等に触れることができ、英語の文法構造にも無意識のレベルで触れることができる点、イラストと理解可能なことばをヒントに前後関係等から、未知の表現や語彙の意味を類推し推測する力や大意をつかむ力を育てる点、日本の絵本で

※ 青森公立大学教授
※※ 岐阜大学准教授
※※※ 筑波大学大学院

扱われないモチーフやイラストを通して異文化に触れ、異文化への興味関心が高まる点、音と文字のつながりへの興味関心が高まる点を挙げている。また、読み聞かせをしながら教師は児童に英語で問いかけをしてインタラク션을図ることができる点も大きなメリットであると考えられる。これによって自然にコミュニケーション能力、特に即興でやり取りをする能力を育てることができる。このように、読み聞かせは小学校外国語科の目標を達成するために大変有効な指導法であると言えるが、新学習指導要領は実施されたばかりであるため、その趣旨を踏まえた教材が十分にあるとは言えない。指導の充実を図るには豊富な教材が必要であるが、市販の絵本の場合、これまで文部科学省が出版した小学校用の英語教材である『英語ノート』や『Hi, friends!』、『Let's try』、『We can!』などには掲載されていない語彙や表現が多く、児童の実態に合わないため、新学習指導要領の趣旨に沿った教材の開発は急務であると言える。

また、本教材に地域の題材を採用した理由は、『外国語活動・外国語科ガイドブック』（文部科学省、2017）では、言語活動で扱う題材は、児童の興味関心があるもの、他教科等の学習や学校行事等で扱う内容と関連があるもの、国際理解および自国理解を深めるのに役立つものを取り上げるべきだとしており、また、青田（2019）が、全国の16都道府県でご当地教材が作成され、市町村のレベルだとその1割弱程度が作成していると報告しているなど、近年地域教材の意義が認められ、その開発が増加しているからである。丹藤（2020）は、日本国内の地域教材を分析した結果、そのねらいが、①英語力及び英語コミュニケーション能力の育成、②地域について学びその理解を深め、地域を愛したり誇りに思ったりする心情を涵養すること、③外国に向けてのふるさとの発信、の3つにまとめられるとし、英語科における地域教材の意義を主張している。

以上が、本研究において『AOMORI Picture Book』を開発する理由であり、この教材を活用することによって、児童が英語の基礎力を身に付けるとともに、青森を愛する心情も涵養できるものと考えている。

2. 研究方法

2.1 『We can!』「STORY TIME」の分析

『We can!』は文部科学省が2018年度からの2年間の新学習指導要領移行期間に使用するために作成した高学年用の英語指導教材である。そして、この中に採用されているのが読み聞かせ用の絵本型教材の「STORY TIME」である。これは、5年生用『We can! 1』、6年生用『We can! 2』の各単元の最終ページに設定されていて、絵と文により構成されている。『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』（文部科学省、2017）によると、5分から10分程度で指導することになっている。導入されたねらいとしては、指導者の読み聞かせを通して、英語の自然な音声を繰り返し聞き英語のリズムやイントネーションに触れさせること、絵を手掛かりにまとまりのある話の内容を推測すること、文字と結びついたり、単語や文、語順などの認識を深めたりすること等が挙げられている。

丹藤（2019）は、『AOMORI Picture Book』開発のため、この「STORY TIME」を分析し、その構成要件を表1のようにまとめた。絵は1ページの中に1枚絵の場合や時系列で2枚の絵、文字で表された以外の情報を持つ絵などが配置され、読み聞かせやインタラクシオンで活用できるようになっている。登場人物は、児童と同年代の複数の児童を配置してコミュニケーション状況を作り出している。トピックは児童の身近な場面が取り上げられているが、これは新学習指導要領の「言語の使用場面例」に示されている「児童の身近な暮らしに関わる場面（家庭での生活、学校での学習や活動、地域の行事など）や特有の表現がよく使われる場面（挨拶、自己紹介、買物、食事、道案内、旅行など）」によるものと判断できる。『We can! 1』は、特に学校生活が場面の中心となっているが、『We can! 2』では場面が家庭や地域に広がり、最後には中学校への接続を意識した内容になっている。絵は、『We can! 1』では各単元の内容がつながっていて、9単元分の「STORY TIME」をつなぎ合わせると1つのストーリーになるという仕掛けが施されている。また『We can! 2』の「STORY

TIME」は一話完結であるが、話の中に韻を踏む単語を意図的に配置するなど、文字と発音の関係や面白さに気付かせるような工夫が見られる。単語数や文数は単元または学年で差があるが、おおよそ20語から40語程度、4文から8文程度で、TTRは0.41である。英文の読みやすさの指標となるリーダビリティは、Flesch Reading Ease scoreが99.5と高く、Flesch-Kincaid Grade

Levelが0.6とアメリカの学年レベルで1年生程度、Automated Readability Indexは-1.6で3才から5才程度となっており、英語学習者の初期のレベルとなっていることが明らかとなった。この「STORY TIME」の構成要件は、本研究で開発する『AOMORI Picture Book』の構成要件の基準とすることとする。

表1 「STORY TIME」の構成要件

項目	内容
絵	1枚絵でその中にインタラクションができるように情報を盛り込んでいる。
登場人物	児童が感情移入できる同年代の男女の子どもを複数人登場させている。
トピック	児童の学校や日常生活に身近で興味を持ちやすいトピックを選択している。
単語数	学年間で差はあるが、20語から40語程度である。
TTR	0.41
文数	学年間で差はあるが、4文から8文程度である。
FRE score	99.5 (very easy to read)
FKGL	0.6 (Grad level: First Grade)
ARI	-1.7 (Grade level: 3-5 yrs. old (Preschool))
表現	英語特有のリズムやイントネーション、韻等、工夫をされている。

TTR: Type-Token Ratio (総単語数における異なり語の割合を示す指標で、ここでは総単語数が少ないことから、異なり単語数/総単語数の式を採用している。例えば、総単語数が50語、異なり単語数が25語だとすると、式は $25 / 50$ となって $TTR = 0.5$ となる。これは2語に1回の割合で異なる単語が出現するという意味である。)

FRE score: Flesch Reading Ease score (0～100までのスケールで示され、60～70を標準として、得点が高くなるほど「読みやすい」テキストであることを示し、反対に得点が低くなるほど難しいテキストであることを示す。)

FKGL: Flesch-Kincaid Grade Level (Flesch Readability Scoreをアメリカの学年レベルに対応させたものである。)

ARI: Automated Readability Index (音節数に基づかないリーダビリティの計測方法でFKGと同じく米国の学年レベルとして算出される。)

2.2 『AOMORI Picture Book』の開発

2.2.1 教材の仕様の決定

丹藤(2020)によると、英語の地域教材は多様化し、パソコン等ICT機器を活用したICT教材の開発が増えてきているとしている。また、文部科学省は、児童生徒1人1台の学習者用端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備するGIGAスクール構想を推進しており、これらの動きにも対応できるよう、『AOMORI

Picture Book』は、パソコンで活用するデジタル教材(CDと指導用冊子)とすることとした。CDには絵と指導例に加え、スクリプトの音声も収録することとした。

2.2.2 トピック、具体的な絵の題材、ターゲットセンテンス

トピック、絵の題材、ターゲットセンテンスの選定は、「STORY TIME」の構成要件を参考に

して、研究協力者である小学校教員3名と中学校英語科教員3名で協議して決定した。

まず、青森の題材を取り上げるトピックだが、青森県内10市、22町、8村の計40市町村それぞれにおける観光地、名産品、祭り、人物などをピックアップし、それらを全国的に有名なもの、全国のランキングで上位のもの、児童が日本または世界で紹介したいと想定されるものという複数の基準で絞り込んだ。また青森県は四季にも特徴があることから、最終的に、特定の地域に偏らないように配慮しながら、4つの季節、シーフード、野菜、祭り、県のシンボル、人物、B級グルメの10のトピックに決定した。

絵は、10のトピックにそれぞれ1枚絵を作成することとした。そして、同じ表現を繰り返しインプットし定着を図るために、1つのトピックについて4つの具体的な題材を取り入れることとした。この題材は、トピックを決定する際に議論の対象になったものの中から選んでいる。

ターゲットセンテンスには『We can!』の中から児童にとって使用頻度が高いと思われる、コミュニケーションで活用できたりする表現を取り上げた。さらに、絵の四隅には読み聞かせ用のスクリプトを入れており、文字指導にも活用できるようにした。スクリプトの音声を使うと、音から文字という手順で指導することができる。本教材は主に読み聞かせて使用することを目的としているが、スクリプトは発表形式またやり取りの形式にしており、読み聞かせの後、話す活動を想定して作成している。

指導例には導入から文字指導までの手順を詳細に示し、またスモール・トークの発話例を挙げているので、英語指導の経験が浅い教員でも十分活用できるものと思われる。

表2は、『AOMORI Picture Book』の各ユニットのトピックと具体的な絵の題材及びターゲットセンテンスの一覧である。

表2 各ユニットのトピックと具体的な絵の題材及びターゲットセンテンス

Unit	トピック	具体的な絵の題材	ターゲットセンテンス
1	シーフード	うに、ほたて、まぐろ、いか	What seafood do you like?
2	野菜	唐辛子、もやし、ごぼう、にんにく	What vegetable do you like?
3	春	桜の花、りんごの花、菜の花、椿の花	In spring, we can see cherry blossoms.
4	夏	青森花火大会、田名部まつり、黒石よされ、八戸七夕まつり	In summer, we have a fireworks festival.
5	祭り	五所川原立ちねぶた、弘前ねぶた、青森ねぶた、八戸三社大祭	What festival do you like?
6	秋	米、とうもろこし、りんご、さば	In fall, Tsugaru is gold.
7	冬	スキー、八戸えんぶり、地吹雪ツアー、弘前城雪燈籠まつり	I'm good at dancing Emburi.
8	シンボル	青森県の鳥(はくちょう)、魚(ひらめ)、花(りんご)、木(ひば)	What is this?
9	ヒーロー	川口淳一郎、柴崎岳、棟方志功、太宰治	Who is your hero?
10	B級グルメ	十和田バラ焼き、黒石つゆ焼きそば、青森味噌カレー牛乳ラーメン、八戸せんべい汁	I went to Lake Towada.

ユニット1のトピックは青森のシーフードで、佐井村のうに、平内町のほたて、大間町のまぐろ、八戸市のいかを取り上げている。ターゲットセンテンスは *What seafood do you like?* で、この問いに対し *I like tuna. It's delicious.* と答えてやり取りをすることを想定している。ユニット2のトピックは青森の野菜で、弘前市の唐辛子、大鰐町のもやし、南部地方のごぼう、田子町のにんにくを取り上げている。ターゲットセンテンスは *What vegetable do you like?* で、この問いに対し *I like bean sprouts. It's crispy.* と答えてやり取りをすることを想定している。ユニット3のトピックは青森の春で、弘前市の桜、岩木山のりんごの花、横浜町の菜の花、平内町の椿の花を取り上げている。ターゲットセンテンスは *In spring, we can see cherry blossoms.* で、地域の春についてその特徴を発表することを想定している。ユニット4のトピックは青森の夏で、青森市の花火大会、むつ市の田名部まつり、黒石市の黒石よされ、八戸市の七夕まつりを取り上げている。ターゲットセンテンスは *In summer, we have a fireworks festival.* で、地域の夏についてその特徴を発表することを想定している。ユニット5のトピックは青森の祭りで、五所川原市の立ちねぶた、弘前市のねぶた、青森市のねぶた、八戸市の三社大祭を取り上げている。ターゲットセンテンスは *What festival do you like?* で、この問いに対し *I like the Nebuta festival. It's exciting.* と答えてやり取りをすることを想定している。ユニット6のトピックは青森の秋で、つがる市の米、岩木山のとうもろこし(嶽きみ)、弘前市のりんご、八戸市のさばを取り上げている。トピックセンテンスは *In fall, Tsugaru is gold.* で、地域の秋についてその特徴を発表することを想定している。ユニット7のトピックは青森の冬で、八甲田山のスキー、八戸市のえんぶり、五所川原市の地吹雪体験ツアー、弘前市の弘前城雪燈籠まつりを取り上げている。トピックセンテンスは *I'm good at dancing Emburi.* で、自分の得意なことを発表することを想定している。ユニット8のトピックは青森のシンボルで、青森県が指定している県の鳥、魚、花、木を取り上げている。トピックセンテンスは *What is this?* で、この問い

に対し *It's a swan.* と答えてやり取りをすることを想定している。ユニット9のトピックは青森のヒーローで、弘前市出身の川口淳一郎、野辺地町出身の柴崎岳、青森市出身の棟方志功、旧金木町出身の太宰治を取り上げている。ターゲットセンテンスは *Who is your hero?* で、この問いに対し *My hero is Kawaguchi Junichiro.* と答えてやり取りをすることを想定している。ユニット10のトピックは青森のB級グルメで、十和田市の十和田バラ焼き、黒石市の黒石つゆ焼きそば、青森市の味噌カレー牛乳ラーメン、八戸市のせんべい汁を取り上げている。ターゲットセンテンスは *What did you do last week?* で、この問いに対し *I went to Towada.* と答えてやり取りをすることを想定している。

3. AOMORI Picture Book の分析

表3は、『We can!』と『AOMORI Picture Book』の比較である。まず、『AOMORI Picture Book』の総単語数及びユニット毎の単語数がそれぞれ765、76.2と『We can!』の472、26.7よりもずっと多いが、これは、『AOMORI Picture Book』が1枚絵の中に4つのシーンを入れていることによるもので、1つのシーンに換算すると『We can!』に比べ少なくなっている。4つのシーンは1時間でまとめて扱う必要はなく、分割しながら使用することも可能であり、またスクリプトも全文ではなく、ターゲットセンテンスだけをピックアップして使うこともできる。授業の進度や児童の実態に合わせ、フレキシブルに活用することが重要である。TTRも0.27と、『We can!』の0.41に比べ低くなっている。このことは『We can!』よりも同じ表現が多く繰り返して出てくることを意味しており、児童にとっては負担が少なく、より表現の定着を図れるものと考えられる。リーダビリティは、Flesch Reading Ease score, Flesch-Kincaid Grade Level, Automated Readability Indexのいずれも『We can!』と同程度となっている。

表3 『We can!』と『AOMORI Picture Book』(APB)におけるユニット数, 総単語数, 異なり語数, TTR, ユニットごとの単語数, リーダビリティ (FRE score, FKGL, ARI) の比較

項目	We can!	APB
ユニット数	18	10
総単語数	472	765
異なり語数	195	207
TTR	0.41	0.27
単語数/Unit	26.7	76.2
FRE score	99.5 (very easy to read)	90.0 (very easy to read)
FKGL	0.6 (Grad level: First Grade)	1.8 (Grad level: Second Grade)
ARI	-1.7 (Grade level: 3-5 yrs. old)	-1.3(Grade level: 3-5 yrs. old)

以上のことから、『AOMORI Picture Book』は、『We can!』と同程度の教材であると言え、小学校外国語科には適した教材であると言える。

ため、自分たちが誇りに思っていることを世界に向けて発信できる貴重な題材の1つであると言える。

4. 実際の教材

4.1 1枚絵の例: Unit 5 「青森の祭り」

Appendix 1にあるUnit 5「青森の祭り」を例に挙げて説明する。左上に五所川原市の立ちねぶた、左下に弘前市のねぶた、中央に青森市のねぶた、右下に八戸市の三社大祭を描いている。そして、四隅にスクリプトを配しているが、このユニットのターゲットセンテンスはWhat festival do you like?となっており、それにI like the Tachi Neputa in Goshogawara.と答える形でスクリプトが展開する。どのスクリプトも同じフォーマットになっているため繰り返し同じ表現を練習することができる。

中央の絵をクリックすると、絵だけが拡大されるため、音声のみで指導したい場合にはこれを活用する。また、スクリプトもクリックすると1つずつ拡大することができる。これを活用して文字指導を行うことができる。

このトピックの場合、青森県内では小規模でもいろいろな地域で夏祭りが行われているため、自分たちの祭りに替えて活動することができる。祭りには小さい頃から参加している児童が多い

4.2 指導例: 青森の祭り

Appendix 2は、4.1で示したユニット「青森の祭り」の指導例である。指導例は、4つの場面のうち1つを取り上げて示している。このフォーマットに従えば、他の場面も同様に指導することができる。

指導の手順だが、まず、スモール・トークで祭りについて児童とやり取りをしながらトピックが祭りであることに気付かせる。児童の体験などを質問しながら引き出し、クラス全体に話題を広げ、クラスの雰囲気作りをする。次に、1枚絵をスクリーンに映し、CDの音声を聞かせる。音声はスピードを遅くし、発音も明瞭にしているため、児童には聞き取りやすいものとなっている。児童の実態に合わせて教員が読むこともできる。そして英語でやり取りをしながら単語や表現の理解を図り、スクリプト全体の理解を促す。それから、CDの後に続いてスクリプトを発話させてみる。教師が読んでリピートさせてもよい。しっかり英語を聞いてまねて発音させる。音による指導の後で、文字指導に移る。スクリーンにスクリプトを大きく映し、指示棒で英語を押さえながら読んで聞かせ、音と文字の一致を図り、その後教師と一緒に読ませるよう

にする。授業の進度や児童の実態に応じて、取り扱う場面や英文の数を適宜調整しながら取り組むことが大切である。

5. おわりに

ここまで述べてきたように、本研究では、小学校の英語教材の基準とした文部科学省英語補助教材『We can!』の絵本型教材「STORY TIME」と、英語の量及び難易度のレベルとして同等の『AOMORI Picture Book』を開発できた。このことは、今後小学校における読み聞かせ教材の開発に1つの示唆を与えるものと考えられる。また、本教材は、新学習指導要領の趣旨に沿ったものであり、新しい観点における英語力の育成に大いに貢献するものと考えられる。それは、読み聞かせ指導や初期の文字指導に加え、授業の中で推奨されているスモール・トークに活用できたり、教科書の内容に合わせてターゲットセンテンスの導入やスピーキングやコミュニケーションな活動にも活用したりすることができるからである。

ただ、この教材はデジタル教材であるため、その開発にはコストがかかっており、今回助成金を獲得できたため完成させることができた。丹藤(2020)が指摘しているように、現場の教員にはコストがかかる教材開発はまだ難しいものと考えられる。

今回はCDと冊子という形で教材を作ったが、文部科学省が推し進めるGIGAスクール構想のもと、これからはインターネットを活用してデータをダウンロードして多くの児童や指導者が活用できるような形での教材開発が求められる。今後はそのような教材開発にも取り組んでいきたいと考えている。

(2021年5月31日受付、2021年7月6日受理)

謝 辞

本研究は、青森公立大学2019年度戦略的助成を受け、「小学校外国語科における青森県版英語リーディング教材の開発事業」として行われた。ここに関係各位に対し深く感謝の意を表す。

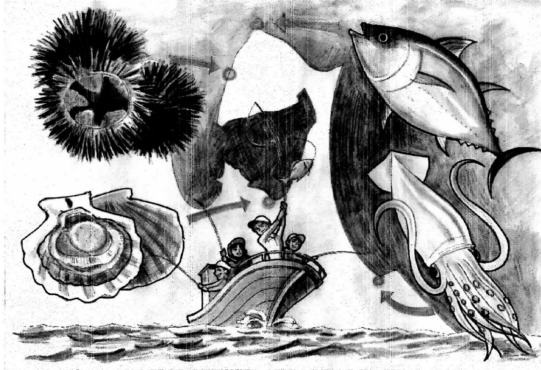
引用文献

- 青田庄真．(2019)．「自治体が作成している英語ご当地教材にはどのようなものがあるか」『英語教育』10月増刊号,30-31. 大修館書店．
- 丹藤永也．(2019)．「文部科学省小学校外国語科移行教材『We can!』にみる英語読み聞かせ教材の構成要件の分析 — 青森県版小学校英語読み聞かせ教材の開発を目指して —」『青森公立大学論纂』第2巻第4号,39-51.
- 丹藤永也．(2020)．「英語科における地域教材の意義とあり方について」『青森公立大学論纂』第6巻第1号,17-27.
- 樋口忠彦(代表)・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子編著．(2013)．『小学校英語教育法入門』．研究社．
- 文部科学省．(2017)．『We can!』．Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/123/houkoku/1382162.htm.
- 文部科学省．(2017)．小学校学習指導要領(平成29年告示)．東洋館出版社．
- 文部科学省．(2017)．『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』．Retrieved from http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

Appendix 1 : 10 種類の 1 枚絵 (実物はカラー)

Unit 1 : 青森のシーフード

What seafood do you like?
I like sea urchin.
Sai is famous for sea urchin.
It's delicious.



What seafood do you like?
I like scallops.
Hiranai is famous for scallops.
It's delicious.

What seafood do you like?
I like tuna.
Oma is famous for tuna.
It's delicious.

What seafood do you like?
I like squid.
Hachinohe is famous for squid.
It's delicious.

Unit 2 : 青森の野菜

What vegetable do you like?
I like red peppers.
Hirosaki is famous for red peppers.
It's spicy.



What vegetable do you like?
I like bean sprouts.
Owani is famous for bean sprouts.
It's crispy.

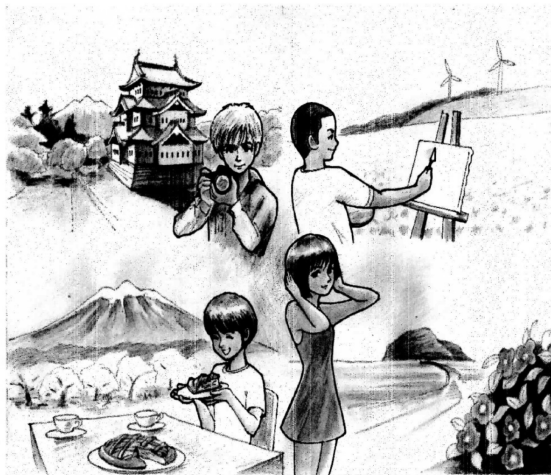
What vegetable do you like?
I like burdock root.
Nambu is famous for burdock root.
It's fresh.

What vegetable do you like?
I like garlic.
Takko is famous for garlic.
It's great.

Unit 3 : 青森の春

In spring, we can see cherry blossoms.
I go to Hirosaki Park.
I want to take photos of Hirosaki Castle.

In spring, we can see canola flowers.
I go to Yokohama.
I want to paint a picture of canola fields.



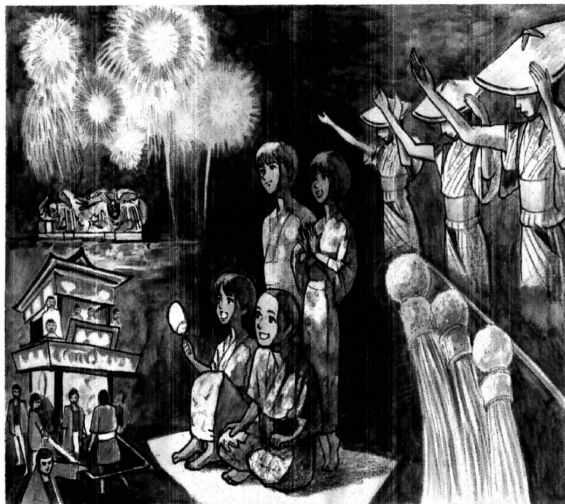
In spring, we can see apple blossoms.
I go to Mt. Iwaki.
I want to eat apple pie.

In spring, we can see camellia flowers.
I go to Hiranai.
I want to use camellia oil.

Unit 4 : 青森の夏

In summer, we have a fireworks festival.
We see fireworks in Aomori.
It's beautiful.

In summer, we have a Bon Odori Dance Festival.
We see Kuroishi Yosare in Kuroishi.
It's wonderful.



In summer, we have a float festival.
We see the Tanabu Festival in Mutsu.
It's powerful.

In summer, we have a Tanabata Festival.
We see tanzaku in Hachinohe.
It's colorful.

Unit 5 : 青森の祭り

What festival do you like?

I like the Tachi Neputa Festival in Goshogawara.

We shout, "Yatte-mare, yatte-mare."

It's exciting.

What festival do you like?

I like the Nebuta Festival in Aomori.

We shout, "Rassera, rassera."

It's exciting.



What festival do you like?

I like the Neputa Festival in Hirosaki.

We shout, "Ya-ya-do."

It's exciting.

What festival do you like?

I like the Sansha-Taisai Festival in Hachinohe.

We shout, "Ya-re, ya-re."

It's exciting.

Unit 6 : 青森の秋

In fall, Tsugaru is gold.

I can eat fresh rice.

I like onigiri, a rice ball.

It's delicious.

In fall, Hirosaki is red.

I can eat fresh apples.

I like apple juice.

It's delicious.



In fall, Mt. Iwaki is yellow.

I can eat fresh sweet corn.

I like boiled corn.

It's delicious.

In fall, Hachinohe is silver.

I can eat fresh mackerel.

I like mackerel grilled with salt.

It's delicious.

Unit 7 : 青森の冬

In winter, we can enjoy skiing on Mt. Hakkoda.
I'm good at skiing.
It's exciting.

In winter, we can enjoy a ground blizzard tour in Goshogawara.
I'm good at walking on the snow.
It's surprising.



In winter, we can enjoy the Emburi Festival in Hachinohe.
I'm good at dancing Emburi.
It's interesting.

In winter, we can enjoy a snow festival in Hirosaki.
I'm good at making snow statues.
It's amazing.

Unit 8 : 青森のシンボル

What is this?
It's a swan.
The swan is the Aomori prefectural bird.
We can see swans in winter.

What is this?
It's an apple blossom.
The apple blossom is the Aomori prefectural flower.
We can see apple blossoms in spring.



What is this?
It's a flounder.
The flounder is the Aomori prefectural fish.
We can eat flounders in fall.

What is this?
It's an Aomori Hiba tree.
The Aomori Hiba is the Aomori prefectural tree.
We can use Aomori Hiba for houses.

Unit 9 : 青森のヒーロー

Who is your hero?
 My hero is Kawaguchi Junichiro.
 He is from Hirosaki.
 He is a great engineer.
 I want to be an engineer.



Who is your hero?
 My hero is Munakata Shiko.
 He is from Aomori.
 He is a great artist.
 I want to be an artist.

Who is your hero?
 My hero is Shibasaki Gaku.
 He is from Noheji.
 He is a great soccer player.
 I want to be a soccer player.

Who is your hero?
 My hero is Dazai Osamu.
 He is from Kanagi.
 He is a great novelist.
 I want to be a novelist.

Unit 10 : 青森の B 級グルメ

What did you do last weekend?
 I went to Lake Towada.
 I saw the Bronze Statue of Maidens.
 I ate Towada Barayaki, beef ribs with sliced onion.
 It was fun.

What did you do last weekend?
 I went to the Asamushi Aquarium.
 I saw a dolphin show.
 I ate Miso-Curry-Milk Ramen.
 It was fun.



What did you do last weekend?
 I went to Kuroishi.
 I saw many kokeshi dolls.
 I ate Kuroishi Tsuyu Yakisoba, fried noodles in soup.
 It was fun.

What did you do last weekend?
 I went to Kabushima.
 I saw black-tailed gulls.
 I ate Sembei-Jiru, rice crackers in soup.
 It was fun.

Appendix 2 : Unit 5 「青森の祭り」 指導例

1. 教師の small talk でトピックを導入しましょう。

[例] Do you like summer festivals? I like fireworks festivals. I like the Tachi Neputa Festival, too. We have many summer festivals in Aomori. Do you enjoy a summer festival? How about you? Do you have a summer festival in your hometown? Do you go to the summer festival? What festival do you like? Why?

ポイント①：児童になじみのある表現を使って small talk を展開し、トピックが青森の祭りであることに気付かせましょう。大小問わず各地にたくさんの祭りがありますので、自分たちの祭りを取り上げてみましょう。好きな理由は日本語で答えさせてもかまいません。

ポイント②：Do you like ~?や How about ~?等を使って他の児童にも会話を広げてみましょう。

2. スクリーンに教材の絵を映して単語やターゲットセンテンスの導入をしましょう。

[the Tachi Neputa Festival の例] 絵を使ってやり取りをしましょう。

What do you see in the picture? We see four summer festivals. What's this? It's the Tachi Neputa in Goshogawara. I like the Tachi Neputa. It's very tall. (手を上に伸ばして大きいというジェスチャー) It's powerful, too. (力強さをアピール) Do you know the Tachi Neputa? Do you like the Tachi Neputa? We shout, "Yatte-mare, yatte-mare." It's exciting. What festival do you like?

ポイント①：児童に問いかけ反応を引き出しながら festival や shout, exciting の意味を理解させましょう。英語で意味を推測させることが難しい場合は、適宜日本語を使いましょう。

ポイント②：単語や表現の意味を確認した後は、I like ~や Do you like ~?などを使って何度も重要な単語や表現をインプットしましょう。

ポイント③：地図を使って五所川原市の位置を確認しましょう。夏祭りは各地で行われているので、適宜自分たちの祭りを使ってもかまいません。

3. スクリプトの音声を通してスクリプトを導入しましょう。まだ文字は読ませません。

Let's listen to the script. (2回聞かせる) What word do you hear? (耳に手をあてて何が聞こえたかという動作をする) Do you hear festival? (他の重要表現も確認する) OK, good job. What festival do you like? (教師がゆっくり読み、合図を出してリピートさせる。児童：What festival do you like?) Good. I like the Tachi Neputa Festival in Goshogawara. (同様に1文ずつ教師の後に続いて言わせる) We shout, "Yatte-mare, yatte-mare." (児童がリピート) It's exciting. (児童がリピート)

ポイント①：この段階では文字を見せずに音をしっかり聞かせ、表現をリピートさせましょう。

4. スクリプトを大きく映し、読む文字を指しながら音と文字を一致させましょう。

What festival do you like? (ゆっくり文字を押さえながら読み聞かせる。2回目は教師と一緒に読ませる。) 以下の文も同じように行う。

ポイント①：この活動の前にはしっかり音のインプットをしておくことが大事です。あくまでも文字は補助的なものとして考えましょう。

ポイント②：文字を指で押さえることで文字の音の確認と読む速さの調節ができます。

ポイント③：うまく読めないところは単語だけ抜き出して練習してもかまいませんが、あまりしつこく繰り返す必要はありません。

5. 他の祭りについても、同じ要領で児童とやり取りしてみましょう。

The Development of AOMORI Picture Book: A Storytelling Teaching Material Introducing the Characteristics of Aomori

Hisaya TANDO Hiroto TAKIZAWA Keiya TANDO

Abstract

The aim of this study is to develop AOMORI Picture Book, an Aomori version of storytelling teaching material for elementary school English. This is based on the component elements of STORY TIME, a picture-book-type teaching material, in *We can!*, which was published by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology. The new material is composed of ten pictures introducing the characteristics of Aomori, and each picture has one topic such as festival, seafood, and vegetables. The scripts for storytelling are set at the four corners of the picture to show English words to students. Furthermore, the teacher's manual is attached so that even inexperienced teachers can utilize this material. From the above, AOMORI Picture Book has the potential to enhance the English ability of elementary school students in Aomori.